平成20年２月市議会定例会　一般質問
質問する議員名及び質問内容

◎　個　人　質　問

1　議　員　　佐　野　和　枝

⑴　介護福祉施策について

①　介護施設の現状

・　第３期介護保険事業計画は計画どおりになされたのか。その進ちょく状況を示せ

・　第４期計画における介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型医療施設の待機の現状と今後の整備について示せ

・　在宅介護での老老介護の実態についての見解を示せ

②　高齢者虐待防止策

・　施設内だけでなく家庭においての虐待に対しての具体的な対応策について市のかかわり合いと、またその虐待の発見の方法について示せ

・　介護にかかわる人の負担の状況と在宅で介護する人を含めて、メンタルヘルスに対しての支援はどのようにしているのか示せ

③　今後の高齢化率上昇に向けた対応策

・　団塊の世代の10年後、20年後に対し、高齢化率の上昇が考えられ、介護士等の人材不足等が考えられる。今からその人材育成が必要であると考えるが、今後どのように進めていくのか、その考えを示せ

・　団塊の世代の方々の豊かな経験と知識を介護の場で活躍してもらう環境づくり、仕組みづくりが必要だと考えるが市の考えを示せ

⑵　観光誘客について

①　ペット同伴ができる施設整備による誘客

・　観光誘客につなげるドッグランをつくる考えについて示せ

・　大型犬も家族と一緒に宿泊できる温泉施設の整備に対する支援の考え方を示せ

2　議　員　　樋　川　　誠

⑴　教育行政について

①　生涯学習指導者情報提供制度

・　生涯学習指導者情報提供制度による活動の実績と評価を示せ

・　来年度より退職教員等外部人材活用事業がスタートする。本市の生涯学習指導者情報提供制度事業と連携を図るべき

と思うが見解を示せ

② 通学路・市道幹Ｉ－22号線（門田地区）の安全確保

・ 歩道は人一人が歩いても車道にはみ出してしまう。冬季間は除雪後の雪で本来の通学路として確保が困難な状況である。この状況をどうみてきたか見解を示せ

・ 危険を感じる子供たちに今後どのように通学路確保をするのか、側溝のふた閉め、こまめな除雪体制、通行区分時間帯規制等が必要と思うが認識を示せ

・ 長期総合計画で市道幹Ｉ－22号線の整備が予定されている。今後の具体的なスケジュールを示せ

③ 子供たちへの健全な生活環境の提供

・ コンビニエンスストア、レンタルビデオ店内に成人向け雑誌などがあり、子供たちへの影響が大きい。青少年健全育成のため、何か対策を講じようとしているのか見解を示せ

⑵ 中心市街地活性化に向けた市内バス交通網の整備について

① 路線バス、コミュニティバスの有効利用の促進

・ 歩いて暮らせるまちづくり社会実験によるコミュニティバス運行の実績と評価を示せ

・ 生活路線バス、コミュニティバスの現状と課題について、今後どのように対応していくのか見解を示せ

・ 北会津、湊、河東、大戸を循環するコミュニティバス事業を新規に立ち上げ、中心市街地に入る生活路線バスとの連携を図る事業を進めるべきと考えるが見解を示せ

3 議 員 斎 藤 基 雄

⑴ 地域公共交通政策について

① 人権保障としての市民の移動手段の確保についての認識

・ 市民の移動の足の確保についての本市の施策や取り組みは、市民の人権保障の観点で行うべきと考えるが認識を示せ

・ 市民の移動手段の確保のために、これまで市が行ってきた取り組みを示せ

② 乗合バスの現状

・ 市町村生活交通路線の概況はどのようになっているか。輸送人員、走行キロについて10年前と現在との比較で示せ

・ 一昨年の大幅な路線変更、及びダイヤ改正の効果をどのように判断しているのか示せ

③ 歩いて暮らせるまちづくり社会実験の評価

・ 昨年８月25日から10月14日まで、会津若松市中心市街地活性化協議会による歩いて暮らせるまちづくり社会実験が行われたが、その結果の概要（中間とりまとめ）を示せ

・ 実験結果の最終的な取りまとめ時期を示せ

・　中間とりまとめに表れた各実験の結果について、現時点での市の評価を示せ
・　この社会実験の目的と今後の対応、課題を示せ

④　改正道路運送法を活用した取り組みの具体化
・　昨年６月の私の質問に対し企画政策部長は、「道路運送法改正の趣旨を踏まえ」と答弁されたが、検討の現状を示せ
・　いわき市三和地区では、地元商工会が中心となり、一般人がマイカーで住民を運ぶ過疎地有償運送の社会実験が行われ、新年度から本格的な事業に移行する計画と聞いているが、このような住民輸送の方式は本市においても、過疎地のみならず市街地においても有効と思われるが認識を示せ
・　地域住民のマイカー輸送について、バス・タクシー事業者の理解も得ながら、具体化に向けた取り組みを開始すべきと考えるが見解を示せ

⑵　行政の文化化と文化政策を進める体制づくりについて

①　本市の文化化の現状
・　行政の文化化を市においてどのように定義しているか
・　行政の文化化を進めることの有効性についての認識を示せ
・　平成 16年２月定例会における私の質問、「行政の文化化の取り組みと今後の行政運営への取り入れ」について、市長は、「市民がより主体的、積極的に行政に参画できる仕組みや環境づくりを進めており」と答弁されたが、本市における行政の文化化の具体的事例を示せ

②　文化政策を推進するための課題
・　本市の文化行政が教育委員会に位置づけられていることの理由を示せ
・　文化行政の一層の推進を図る上でも、また知事部局で文化行政を所管している県との連携を図る上でも文化行政にかかわる部門を市長部局へ移行させるべきではないか見解を示せ

４　議　員　　成　田　芳　雄

⑴　全庁横断的な事業計画の位置づけ及び事業推進について
・　事業推進における現状の縦割り組織のメリットやデメリットを示せ
・　現在進行中の全庁横断的あるいは他の部にわたる事業数を示せ
・　庁内横断的事業推進に当たり、どのような取り組みを行い、どのような課題があったのか
・　課題解決をどのようにしてきたのか

・　全庁横断的な事業計画は、どのような位置づけとしているか
・　事業執行に当たり、市長を除きだれがどのような権限に基づき指示・命令を下すとともに進行管理し、業務推進義務及び責任を持ってきたのか
・　これからますます増加するであろう全庁横断的な事業推進には、特命的な職務権限や義務・責任、職務内容の明確化が必要である。よって柔軟で一部横割り的な組織体制とするため、これらを関連する条例や規則に一筆加えるべきと思うが見解を示せ

⑵　東年貢二丁目の石橋から古川合流地点までの蟹川堀及び石橋の整備について
・　現状認識と課題
・　その課題解決とともに整備に向けて取り組むべきと思うが見解を示せ

5　議　員　　清　川　雅　史

⑴　市民と行政との協働によるまちづくりについて
①　市民活動に対する各種施策
・　市民活動の機運づくりに向けて、市民活動に対する理解促進と参加者拡大への支援を充実すべきと思うが考えを示せ
・　市民活動がしやすい環境整備のため、市民活動への支援の具体的メニューの充実と強化が必要と思うが考えを示せ
・　市民活動団体の連携の強化のため、企業、ボランティア、ＮＰＯ等とのネットワークを拡充すべきと思うが考えを示せ
・　市民活動団体への事務事業の外部委託推進のため、外部委託の基準を策定し、公表すべきと思うが考えを示せ
②　市民と行政との協働のための指針の必要性
・　市民との協働を推進するため、協働の指針策定が必要だと思うが、協働参画の基本的な考え方、形態、方法を示した指針の必要性についての見解を示せ
③　市民活動活性化を促進するための活動拠点施設の整備
・　市民活動の環境の整備、各活動団体のネットワーク化、市民の社会参画意識の高揚等、市民活動振興のための活動拠点施設の整備が必要と思うが見解を示せ

6　議　員　　鈴　木　一　弘

⑴　学校給食について
①　安全性の確保
・　中国製冷凍ギョーザ中毒事件の報道後、中国製冷凍ギョーザの有無について調査し、安全性を確認したのか。した

とすれば報道のどの時点か示せ
・　外国製冷凍調理加工品の利用はあるのか。あるとすればどのような品目で月何回程度出されているのか示せ
・　納品される食材の事前検査、国内製品でも原材料が中国産などの場合には薬品検査が必要と考えるが、今までこうした安全対策はどのようにしてきたのか示せ
・　地産地消として活用してきた直近の地元産品取扱量について示せ。また将来に向けての目標値を示せ

②　給食費
・　給食費未納の実態はどうなっているのか。払えない人の理由を示せ。また、未納者は増える傾向にあると思われるが、こうした問題に平成20年度はどのように対応するのか示せ
・　教員の給食費未払いについて示せ。だれがどのように集金しているのか示せ
・　なぜ北会津地区の幼稚園の１食平均単価が 232円、河東地区の幼稚園の１食平均単価が 244円と12円の格差があるのか理由を示せ

③　給食を通した教育
・　地産地消を推進し、地元の野菜や果物、季節によっては山菜などを使い、食を通して旬や季節を体験できるような献立づくりをしているか示せ
・　食べられることが当たり前と思っている子供に、飢えて亡くなっていく子供がたくさんいる実態を教え、食べられる幸せを教えているか示せ
・　農業や漁業、食材をそろえる業者、おいしく調理してくれる人たちの苦労を教え、感謝の心が生まれるような指導をしているか示せ
・　学校給食を通じてさまざまな教育やしつけができると思うが、食に関してこれまでどのような食育指導をしてきたのか示せ
・　ごみ減量化の取り組みについて、生ごみの量はどれくらいか示せ。この量は最低に抑えた量と考えるのか、まだ減らせる量と考えているのか考えを示せ。加えて生ごみをどのように処理されているか示せ

④　学校給食のあり方
・　週に一度、月に一度でも親のつくった弁当を持ってくる日をつくり、学校任せの親の心に親子の愛や絆を再認識してもらえる日を設けることを食育の一環として提案したい。学校給食運営委員会等の会議で今後の課題として取り組むべきと考えるが当局の考えを示せ

⑵　図書館の移設について

①　郷土資料等の活用

・　（仮称）生涯学習総合センターの建設に伴い、新たな図書館がつくられることになるが、現在の会津図書館で保管する郷土資料等については、そのまま現在の図書館に保存すべきではないか
・　郷土資料等については、学識経験者の意見を聞くなどして貴重な資料の解説、分析、研究の効率化を図れないか。また、１日でも早い活用を図るべきと考えるが見解を示せ

⑶　武徳殿の火災について

①　武徳殿の管理

・　今年２月初めに武徳殿で放火事件が発生し、２週間後に不法侵入した中学生が逮捕された事件に関し、建物の管理者としてどのように受け止めているのか
・　再発防止のためにどのような協議がなされ、どのような措置を取ったのか
・　武徳殿は花と緑の課の所管となっているが、鶴ケ城の中にある施設であるにもかかわらず、なぜこのような管理体制を取っているのか。今後もこのままでいくのか。管理者を変える意向はあるのか見解を示せ
・　今後、武徳殿をどのように守っていくのか

②　あいづっこ宣言と児童生徒の精神的教育による未然防止策

・　あいづっこ宣言の定着をどのように図っていくのか
・　あいづっこ宣言策定後の普及の高まりとその効果を示せ
・　今回の武徳殿放火事件や昨年起きた高校生による母親殺し事件のときには、「会津のならぬことはならぬの精神はどこへ行ってしまったのか」などの言葉が報道に加えられたことがあった。子供の精神の柱としてこのようなことがないよう、どのように宣言を生かしていくのか見解を示せ

７　議　員　　松　崎　　新

⑴　地球温暖化防止対策について

①　市における地球温暖化防止対策のあり方

・　現在までの取り組み状況をどのように総括しているのか示せ
・　地球温暖化防止対策推進に対する認識を示せ

②　1993年に環境省が策定し、2007年３月に改定した第３版地球温暖化防止対策地域推進計画策定ガイドラインの具体化

・　ガイドラインは温室ガス排出算定手法や対策のあり方について変更し、市町村の役割を明確にした。それを踏まえた市の考え方を示せ
・　今後市は、地球温暖化防止対策推進を市民全体に広げるためにどのように周知を図り、その実行に努めるのか考えを示せ

⑵　介護保険サービスのさらなる充実と市の監視体制強化につい

て

① 介護保険の現状

・ 高齢者保健福祉計画・第３期介護保険事業計画を実行中であるが、高齢者の尊厳と自立を支える質の高いサービス提供、健康で生きがいをもって元気に過ごす対策について、どのような中間総括をしているのかを示せ

・ 平成14年度と18年度の比較で介護保険事業サービスの居宅サービスと施設サービスは利用状況が変化している。このことは利用者とその親族にどのような状況をもたらしているか。さらにそれを踏まえ、今後の政策にどのように生かしていくのか示せ

② 行政の監督責任

・ コムスン事件は、改めて行政の監督責任についての重要性が指摘された。会津若松市における介護事業者に対する指導監督のあり方について考えを示せ。平成19年10月から20年２月現在までに給付適正化事業を24件行ってきたがその効果、今後の事業推進方策について示せ

③ 地域密着型サービス事業者選定

・ 平成18年度から２回実施された会津若松市指定地域密着型サービス等事業候補者選定をどのように総括しているのかを示せ

・ 会津若松市指定地域密着型サービス等事業候補者選定基準などの見直しを行いながら、さらなる健全化を図る必要があると思うが市の考えを示せ

８ 議 員 浅 田 誠

⑴ 地場産業の振興施策について

① 伝統的地場産業（漆器業、酒造業等）の振興策

・ 近年の状況を踏まえての課題に対する認識

・ 行政としてのかかわりとその効果の実態

・ 漆器業と酒造業に意味づけのあるイベントを創出して、活性化の起爆剤とすべきと思うが見解を示せ

② 農産物も含めた会津ブランドの推進策

・ 市内外への浸透状況と課題

・ 会津ブランド推進委員会の役割、活動状況とその成果、今後の対応策

・ 情報発信の状況と今後の対応策

③ 県ハイテクプラザ会津若松技術支援センターとのかかわり

・ 施設、技術及び経費面でのかかわり状況とそれに対する成果の状況

・ これらの内容についての現状の課題と今後の対応策への考え

④ アンテナショップへの取り組み

・　現状の取り組み状況とその評価と課題
・　今後の拡充策

⑵　人材育成施策について

①　第３次人材育成基本計画

・　進ちょく状況をもとにしてのその成果と課題
・　最終３カ年目の取り組み内容とこれまでの課題を踏まえての推進策
・　第４次計画立案に向けての考え

②　職員研修の充実

・　自己啓発、研修所研修、職場研修及び派遣研修に対する取り組み状況、その成果と課題、その成果の活用への取り組み
・　全員一資格取得運動を導入し、取り組み発表会を開催することにより自己啓発の一助にする考えはないか
・　年齢別研修の導入に対する考え
・　組織文化の醸成も含めて、市民等との交流の促進による本市人づくり施策の推進のため、職員がどのようなリーダーシップをとるべきか、さらにはそのためにどのようにして推進していく考えなのか示せ

9　議　員　　近　藤　信　行

⑴　福祉行政について

①　ふれあい訪問（家庭ごみ）収集

・　家庭ごみを集積所に出すことが困難な高齢者、障がい者に対してどのように対応しているのか
・　福島方式のふれあい訪問収集のような取り組みをすべきと思うがどうか

②　妊婦無料健診の拡充と里帰り妊婦健診

・　無料健診のさらなる拡充への取り組み
・　里帰り妊婦健診に対する助成制度について、県外での妊婦健診に対しても助成すべきと思うがどうか

③　市民成年後見人育成

・　成年後見人の潜在的需要は多いと思うが把握しているのか
・　市民成年後見人育成について、市として取り組むべきと思うがどうか

10　議　員　　伊　東　く　に

⑴　分別資源物回収のあり方について

・　市民が努力し資源物として回収されているものは、資源としてどのように活用され、成果を上げているのか示せ
・　分別資源物回収に取り組んで以来、今日までの経過と課題について示せ

・　北会津地区における回収方法の変更は何を目的に行われるのか、その効果も合わせて示せ
・　自治会、町内会の中には高齢化が進み、回収業務時の事故やけがの発生が心配される、高齢者への配慮についての認識と対応策を示せ

11　議　員　　相　田　照　仁

⑴　地域新エネルギービジョンの推進について

①　地域新エネルギービジョンの活用と新エネルギーの普及状況

・　どのような形でビジョンを活用してきたのか
・　市民、企業を含めた新エネルギーの普及状況と実績に対する評価を示せ
・　バイオマスタウン構想と企業等の新エネルギー導入を視野に入れた今後の動向と対応について示せ

②　目標値の設定

・　目標となる数値は設定されていないがなぜか。その理由と導入促進を図るためにしっかり目標値を掲げるべきと思うが市の見解を示せ

③　地域新エネルギービジョンの改定

・　合併による市域拡大や国県等の新エネルギー導入施策の変化の中、ビジョンの改定が必要不可欠であると思うがどうか

④　新エネルギー導入促進

・　市民、企業に対し、新エネルギー導入促進のための策をどのように講じているか
・　今後有利な助成制度を活用するための受け皿を構築し、全市を挙げて積極的に地球温暖化防止に取り組むべきと考えるが市の見解を示せ

⑵　会津の刀匠について

①　五鍛冶六家の認識

・　五鍛冶六家についてどのように認識しているか、見解を示せ

②　赤羽接収刀の状況

・　若狭守藤原道辰の太刀と脇差が文化財保護審議会に諮られているが、具体的内容と評価、今後の活用と情報発信について示せ
・　国から譲与を受けた55振の刀剣類の中で何口が研磨・修繕して活用されているか。また銘は何か。さらに残された赤羽刀の銘と現在の状態と管理及び今後の対応について示せ

③　刀匠三善長道と五鍛冶六家の位置づけ

・　三善長道の墓等を含め、観光資源としての活用に対し、

現在までどのように取り組んできたのか。またその成果と今後の対応について示せ
・　会津の刀匠・刀剣を歴史的文化資源としてどのように位置づけ、観光資源として策を講じてきたのか。また今後どのように光を当て情報発信していくか見解を示せ

⑶　接遇の向上について

①　取り組み状況

・　現在までの職員に対する苦情の状況と対応について示せ
・　職員の意識改革の取り組み状況とその成果、今後の対応について示せ

12　議　員　　大　竹　俊　哉

⑴　こども課の設置について

①　行政の効率化とこども課の設置

・　子育てに関する行政窓口を一元化することによって質の高いサービスを提供することが可能となり、あわせて行政の効率化を図ることによって行財政改革がスピードアップされると思うが、市にはそういった考えがないのか
・　過去の議会において似通った質問や提言がなされているようだが、こども課ができなかった最大の要因は何か
・　こども課を設置すべきと考えるがどうか

⑵　鶴ケ城周辺のグランドデザインについて

①　会津学鳳高校移転、図書館移転、県立会津総合病院移転、陸上競技場移転、城前団地の老朽化問題など会津観光のメインストリートとも言われる通りのグランドデザイン策定の必要性

・　（仮称）生涯学習総合センター完成後の会津学鳳高校跡地利用計画について進展はあるのか
・　図書館移転後の利用計画について進展はあるのか
・　県立会津総合病院移転後の跡地について取得の意志はあるのか。県の動向は。取り壊し事業の協議はしているのか
・　陸上競技場の跡地をどのように利活用していく予定なのか
・　城前団地の建替計画はどの程度進んでいるのか
・　旧会津学鳳高校交差点（芦ノ牧方面への左折帯）を拡幅すべきではないか
・　直江兼続が居住していた場所は、山鹿素行顕彰碑近辺と史書に記載されているが、大河ドラマ放映に向けて周辺地域を整備すべきではないか
・　裁判所内にある旧内藤邸庭園の観光施設としての貸与を求めてはどうか
・　上記周辺は会津が落城した際、ひ毛せんを敷いて行った降伏調印の場所とされているが、その歴史的価値について

の認識は
・　ハイカラさんのバス停があまりにも観光スポットらしくない、「おもてなし」と言えるのか。改善すべきである
・　ガードレールの変形、腐食が目立つが、管理体制はどうなっているのか
・　跡地利用と整備については、個別事業ではなくグランドデザインを策定し、市民に示して説明責任を果たすべきだと思うが、市長はどのように考えているのか

⑶　子育て支援事業について

①　こどもクラブの拡充策としての施設の確保や運営方法
・　平成22年以降は、71人以上の施設は分割しなければ補助金を打ち切る旨の通達が国からなされているが、その対象施設はどこで予算はどうなるのか
・　公共施設の利用について中央公民館に期間限定でも併設できないか。北会津・河東支所に併設できないか。各地に所在するコミュニティセンター、及び公民館内に設置できないか
・　大型店や商店街空き店舗利用などの民間施設への働きかけを行ってはどうか
・　運営母体はアウトソーシングすべきではないか
・　闇川保育所の跡地はどうするのか
・　人口動態に基づいて施設計画を行っているのか
・　未設置地区への対応はどうなっているのか
・　対象学年の引き上げについての考えはあるのか
・　集計上待機児童は０名となっているが、定義上待機児童とみなされない潜在的待機児童は60名いる。どういった理由でみなされないのか
・　厚生労働省がカウントしなくてよいと言ったからといって、放置してよいというわけではないと思うが、その解決策はあるのか
・　中央保育所、広田保育所、大田原保育所は現状維持の方針を聞いているが、どのように効率化を進めていくのか
・　のぞみ保育園（旧第四保育園）の移築に伴い、道路情勢が変わると予想されるが、その対応はなされているのか

13　議　員　　渡　部　優　生

⑴　入札制度改革への取り組みについて

①　入札制度改革の目的と成果
・　透明性、公平性の確保と談合の防止など、改革の目的は達成されているのか。またその評価はどうか

②　予定価格の事前公表の検証
・　予定価格の事前公表は適正な入札制度に効果があるのか。またどのように評価しているのか

③　低入札価格調査制度の成果と課題

・　平成19年１月より低入札価格調査制度に失格基準を導入したがその成果は。目的は達成されているのか。また課題をどのように認識し、今後どのように対応する考えか

④　総合評価導入の考え

・　入札参加資格において総合評価制度を導入すべきと考えるが、市の考えはどうか

⑤　電子入札制度の考え

・　入札に際し、電子入札を導入すべきと考えるが、市の考えはどうか

⑥　建設企業の新分野への進出促進対策の考え

・　建設業界は発注量も減少し、過剰な競争状態にある。建設企業の新分野への進出を促進する対策が必要と考えるが、市の考えはどうか

⑦　市発注事業と地域経済活性化の認識

・　市発注の各種工事、委託、購買などについては、地域経済が活性化するよう配慮する必要があると考えるが、市の考えはどうか。過剰な競争状態の中、低入札価格のもとでは地域経済活性化は図れないと考える。地域経済活性化に配慮した入札制度にすべきと思うがどうか

⑵　指定管理者制度の検証について

①　指定管理者制度の導入目的と成果

・　指定管理者の当初の導入目的と成果について、市の費用面、市民サービス面、行政責任の確保面、それぞれの点でどのように検証しているのか

②　指定管理者制度を導入しての課題と今後の対策

・　指定管理者制度を導入しての課題と今後どのように課題に対応していくのか

③　次回更新時公募に当たり、競争性の確保は図れるのか

・　次回更新時公募に当たり、競争性の確保は図れるのか。またそのための条件整備をどのように進めるのか、具体的な対策を示せ

14　議　員　　小　湊　好　廣

⑴　保健予防・健康づくりについて

①　健康づくり

・　健康わかまつ21と健康かわひがし21の主要事業の中間評価とその課題、認識を示せ

・　保険医療制度の改正による集団健診などの特定健診・特定保健指導の目標値と目標値設定の考え方について示せ

・　特定健診・特定保健指導の実施体制と目標達成の見通しを示せ

・　特定健診等に取り組むことによる医療費削減などの財政

効果の見通しを示せ
・　行政評価では拡大となっているが、健康づくり推進体制整備はどのようになっているか
・　食生活改善推進員の養成を強化すべきではないか
・　高齢者、健康優良者表彰の創設
・　自殺対策基本法の制定に伴い、本市に予防サポートセンターを設置すべきではないか

②　がん撲滅都市宣言
・　検診受診率についての総括を示せ
・　検診体制の拡充強化は
・　たばこの禁煙率の拡大を図るための方策は
・　前立腺がん検診の導入の考えを示せ
・　市民への意識高揚の方策を示せ

⑵　教育行政について

①　安全な学校づくり
・　年度内に策定するとしている小中学校施設耐震化推進基本方針について、合併特例事業で前期事業に位置づけされた学校建設事業を含め、その内容と財政的な裏づけを示せ
・　ＡＥＤの設置と訓練は、どのように行うのか

②　不登校問題と特別支援教育
・　不登校対策といじめ問題の現状と対応を示せ
・　特別支援教育に対する具体的な考え方を示せ。また特別支援員ボランティアの配置増は考えているのか

15　議　員　　目　黒　章三郎

⑴　地域自立を目指す観光政策について

①　拠点観光から地域資源まるごと観光へ
・　従来の物見遊山型拠点観光から体験交流型観光を充実させるような新たな観光戦略の構築が必要と考えるが、その認識を示せ
・　新たな観光戦略の構築のために観光課、商工課、農政課、農林課、健康増進課、学校教育課、文化課、スポーツ振興室、企画調整課、地域振興課などから人選し、外部有識者を交えた組織によるプラニングが必要と思うがどうか
・　会津を一つの文化圏、広域圏、地域資源ととらえ、全会津広域連携のリーダーシップを本市が取るべきと考えるがどうか
・　観光振興や地域振興を推進する事業体が必要で、長期的に成果を上げていくために収益を再投資に回せる株式会社のような組織を立ち上げる必要があると考えるがどうか
・　本市におけるグリーンツーリズムを発展させていくための課題と戦略を示せ

16　議　員　　土　屋　　隆

⑴　農業政策について

①　農業政策の変遷

・　猫の目農政の変わらぬ急所は何か

・　朝令暮改の農政に対する農家の不信感やそれに伴う農業農村の活力減退への市の認識は

・　地域水田農業活性化緊急対策の結果として、新規に生産調整に参加する農家数と面積は

・　さほど増えない原因はどこにあると考えるか

・　今後どこまで生産調整していくのか

・　世界の食料事情から見て、米の生産調整は本当に必要な政策なのか見解を示せ

②　商工・観光と農の連携

・　会津地域経済循環推進協議会の目的と構成団体は。またこれまでの主な取り組み及びこれからの事業展開を示せ

・　農の側から発信できるものとして、付加価値の高い農産物を生産する仕組みづくりとその商品化についての市の考えは

・　ミネラル農法について、研究所の訪問等を行いながら研究調査すべきと思うがどうか

⑵　私道の市道への昇格認定について

①　認定要件の確認

・　私道が市道となる認定の要件は何か

・　公の道路として使用されている私道の所有者の権利制限はどこまでなのか

・　市道への昇格認定が困難な場合、利用権を設定し、道路としての補修、除雪など、管理は市が行うという仕組みづくりができないか

17　議　員　　渡　部　　認

⑴　観光行政について

①　国の観光立国方針への対応

・　観光立国推進基本法及び観光庁創設への認識

・　国の動向の着目点と本市観光施策とのリンク

・　本市観光担当部署の組織体制強化の必要性

②　観光入込数の現状と今後の見通し

・　平成19年観光入込数に対する認識と評価

・　平成20年観光誘客目標数とその根拠

③　広域観光の推進と鶴ケ城及び鶴ケ城公園の整備計画

・　新たな大型キャンペーンの実施計画とその内容

・　神指城周辺整備計画の考え方について、観光資源としての考え方と遺跡保存の考え方を示せ

・　期待される広域観光のための施策充実に向けた方針

・　鶴ケ城再建50周年に向けた事業の具体的な取り組み

④　会津若松観光物産協会の現状と課題

・　県の観光関連団体の統廃合についての認識と今後の観光物産協会のあり方

・　主催・共催する各種イベントの成果と課題

18　議　員　　横　山　　淳

⑴　猪苗代湖の水質日本一を取り戻すための取り組みについて

①　水質がランキング外になった経緯と分析

・　環境省による湖沼水質ランキングの決定方法は

・　大腸菌群数のデータを除けば平成18年度の水質は全国何位にランクされるか

・　平成19年の大腸菌群数も基準値を超えている。今年度もランキング外になるのか

②　基準値を超える大腸菌群数が検出された原因と認識

・　湖心で採取された大腸菌群の中に病原性大腸菌や糞便性大腸菌は含まれているのか

・　県発表の見解も含め、考えられる原因を示せ

・　水質日本一のイメージが大きく崩れた大腸菌群数の増加に対する認識を示せ

③　水質保持のために取り組んできた事業

・　市猪苗代湖水環境保全推進計画についてその進ちょく状況と評価を示せ

④　今後の本市の取り組み

・　平成17年以降、大腸菌群数の調査をやめた理由は何か

・　平成20年以降は大腸菌群数測定を再開すべきである。他７項目の測定と合わせて実施可能か。１回あたりの測定費用とその方法を示せ

・　市猪苗代湖水環境保全推進計画のうち、農業集落排水処理施設水洗化率の平成20年度目標値が共和・赤井両地区とも 100％となっているが見通しを示せ。窒素除去型浄化槽の設置の平成20年度目標値が 180基となっているがその見通しを示せ

⑵　本物に触れさせる教育推進について

①　学習指導要領改訂案の公表を受けて移行措置期間に準備する対策

・　授業時数の増加に伴う学校運営について、教職員の仕事量の増加、事務仕事開始時の遅れへの対応、持ち帰り等によるデータ管理への対応、放課後の活動（部活動、特別活動等）への影響への対応を示せ

・　指導内容の変化に伴う対応準備として、中学体育における武道への対応、中学音楽における和楽器への対応を示せ

・　特別支援教育における本物に触れさせる教育について、

指導の量、質の向上のため普通学級に籍を置き、コーディネーターや加配教員の指導による体制に向かう考え方に対する考えを示せ。また、指導教科の拡大と強化をすべきと考えるがその考えを示せ

② 理科の授業時数増加に伴う対応

・ 文部科学省の理科整備基準と比べ、本市の現状は10%台で低い。特に急がれる整備項目は何か。目標値による年次計画をつくるべきだと思うがその考えを示せ

・ 小学校における理科の授業について、理科の指導が苦手と思っている教師が多く、十分な実験、観察、測定を伴う指導が不十分だと思うがその認識を示せ

・ 福島市のこむこむでは、先生のための理科の実験授業が実施されている。本市においても同様の施設が必要と思うが考えを示せ

③ 本物に触れさせるための外部専門講師の導入推進

・ 外部講師による出前講座の登録制度を創設することの考えは

④ 学力テストと研究授業の相関についての認識

・ これまで行われてきた国県の学力テストは、国語、算数、数学が中心になっている。公開研究授業が行われている学校は一部であるが、これはなぜか

・ 自主公開とはいえ、研究、研修は教師の資質向上につながると考えるが、市として全校が公開研究授業を行う方針を打ち出す考えはあるか

・ 公開研究授業が学力テストを意識して一部の学校を除いて国語算数に偏っていないか

・ 全教科バランスの取れた公開研究授業に取り組むように指導する考えはないか

⑤ 小学校における英語教育

・ 平成19年度で終了する本市のＩＴ特区英語授業の主な成果を示せ。また、その成果をどう生かしていくのか

⑥ 教育長の見解を伺う

・ 財政難の時代を乗り切るためにこそ、子供たちの教育に投資すべきである。教師が授業に専念するための研究、研修の機会をたくさん保障すべきである。さらに教職員の心身の負担軽減のためのあらゆる工夫を講ずる必要がある。また親に対してはっきりと自分の考えを言える自信と誇りにあふれる教師を育成する必要がある。以上のように考えるが、教育長の見解を示せ